

日本医史学雑誌 第61巻 第3号

目 次

原 著

- 18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜
——起源から終焉まで——…………… 坂井 建雄 235
- 明治天皇皇子夭折の死因について…………… 深瀬 泰旦 255

ひ ろ ば

- 緒方洪庵が武谷棧亭(祐之)に宛てた書簡(安政4年12月20日)…………… 中山 茂春 267

資 料

- 18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書とその著者…………… 坂井 建雄 273
- 池田文書の研究(52)…………… 池田文書研究会 299

記 事

- 例会記録…………… 309

例会抄録

- 東京医科歯科大学創立者 島峯徹によるアイヌ人の口腔内調査について
——発見された90年前の研究誌「純粹『アイヌ』人の
口腔器関特に歯牙の研究」——…………… 鈴木浩一郎, 戸出 一郎 309
- 日本で最初に雇用された女性看病人について…………… 日下 修一 311
- 宇田川榕菴の写生図と植物標本…………… 加藤 僖重 312
- 中国医経の新研究…………… 真柳 誠 315
- 日本のワクチン産業史の新時代なのか?
——HIBワクチンの日本承認をめぐる——…………… ジュリア・ヨング 316
- 動物用ワクチンの歴史…………… 平山 紀夫 318

日本医史学会平成27年3月例会

シンポジウム：産科と助産／現代の課題と医史学の観点から

1. シンポジウム「産科と助産／現代の課題と医史学の観点から」企画の趣旨
…………… 月澤美代子 319
2. 明治初期の産婆制度成立過程
——東京府病院産婆教授所と山形県の例を通して——…………… 高橋みや子 320
3. 「出生の場所」としての「病院・診療所」に従事する助産師の適正数,
養成数と職能の研究について…………… 藤原 聡子 322
4. 周産期医療の現状と東日本大震災の影響
——将来に向けた産科医・助産師連携の取り組み——…………… 佐藤喜根子 323

水島府県別生命表における刊行経緯・方法の変遷と生命表精度に関する認識

逢見 憲一 325

書 評

米沢市医師会・米沢市上杉博物館 編『米沢藩医 堀内家文書』…………… 海原 亮 326

書籍紹介

真柳 誠 著『黄帝医籍研究』…………… 天野 陽介 328

投稿規定 …………… 330

編集後記 …………… 332

《本号の表紙絵》

ガリオポントゥス『受難録』

左：12世紀後半の手稿，冒頭部分（British Library, Harley MS 1685, ff 1r-143v, Great Britain）

右：1526年リヨン刊，扉（Zentralbibliothek Zürich, Switzerland）

ガリオポントゥス（Gariopontus; fl. c. 1035–1050）の『受難録（Passionarius）』は、医学実地書の最古のものとして知られている。ガリオポントゥスは早期のサレルノ医学校で医学を教えた医師の一人で、同時代の資料の中で学識ある医師として言及されている。

ガリオポントゥスの頃には、アラビアの医学書はまだヨーロッパに知られておらず、『受難録』は南イタリアに伝存していた古代ギリシャ・ローマのヒポクラテスやガレノスなどの著作をもとにして書かれた。『受難録』では、身体各部の疾患が頭から足への順に配列され、さらに全身性の熱病が扱われている。各疾患について診断と臨床像を述べた後、治療法とくに薬の処方を書く。『受難録』は実用的な医学実地書としてサレルノ医学校だけでなく、後世の大学医学部でも愛用された。さらに同様の構成をもつ医学実地書は、サレルノ医学校の教師たちやその後の数多くの医師たちによって書かれ、さらに新たな項目が付け加えられたり、別の構成をもつ医学実地書も編まれたりしながらも、基本的な構成を保ちながら18世紀末まで、医学教育の教材や医師の必携書として広く用いられ続けた。

18世紀以前のヨーロッパの大学医学部では、理論 *theoretica* と実地 *practica* が重要な授業科目であった。医学理論では自然と人間に関する普遍的な原理を明らかにし議論し、医学実地では健康を保持し回復するための手段を教えた。医学理論の教材としては、アヴィケンナの『医学典範』の第1巻や、フェルネルの『医学』（1554）を初めとする医学理論書がよく用いられ、その内容と構成は解剖学・生理学の研究の発展とともに大きく変化して、ブールハーフェの『医学教程』を生み出すに至った。これに対して医学実地書は、11世紀のガリオポントゥスの『受難録』から始まり、さまざまな修正や異型を生み出しながらも、18世紀までその基本的な構成を維持し、医学教育の基本的な教材であり続けた。

本号所収の論文「18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜——起源から終焉まで——」を参照されたい。

（坂井 建雄）